

沖縄県教育大綱（仮称）（案）イメージ

I 大綱策定の趣旨

知事と教育委員会の連携の強化を図り、それぞれの施策をより一体的に推進するため、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の3の規定に基づき、沖縄県の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策について、その目標や施策展開の方針を定める。

II 大綱の対象期間

平成27年度から平成28年度まで

※ 「沖縄21世紀ビジョン基本計画」の前期実施計画である「沖縄21世紀ビジョン実施計画」及び「沖縄県教育振興基本計画」の前期計画の期間が平成24年度から平成28年度までの5年間であり、これらの計画と整合を図る必要がある。

III 教育の目標

県は、個性の尊重を基本とし、国及び郷土の自然と文化に誇りをもち、創造性・国際性に富む人材の育成と生涯学習の振興を期して、次のことを目標に教育施策を推進する。

自ら学ぶ意欲を育て、学力の向上を目指すとともに、豊かな表現力とねばり強さをもつ幼児児童生徒を育成する。

平和で安らぎと活力ある社会の形成者として、郷土文化の継承・発展に寄与し、国際社会・情報社会等で活躍する心身ともに健全な県民を育成する。

学校・家庭・地域社会の相互の連携及び協力のもとに、時代の変化に対応し得る教育の方法を追究し、生涯学習社会の実現を図る。

幅広い教養と専門的能力を培うとともに、高い公共性・倫理性を保持しつつ、時代の変化に合わせて積極的に社会を支え、改善していく資質を有する人材を育成する。

IV 施策展開

1 潤いと生きがいのある生涯学習社会の実現 (生涯学習の充実)

- 「潤いと生きがいのある生涯学習社会の実現」に向け、生涯学習推進体制・基盤の整備を図るとともに、市町村や大学等の高等教育機関、民間教育事業者等と連携した生涯学習ネットワークの整備を促進し、高度情報通信技術を活用した生涯学習機会の拡充を図る。
- 学んだ成果が適切に評価され、社会に生かせるような生涯学習評価システムと体制整備を推進する。

2 自ら学ぶ意欲を育む学校教育の充実 (学校教育の充実)

- 学校では、幼児児童生徒の発達段階を踏まえ、基礎的な知識及び技能の習得と、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力、応用力等を育み、主体的に学習に取り組む態度を養うため、組織的・計画的・継続的な教育に取り組む。
- 豊かな人間性や社会性の育成を図るため、各教科、科目、道徳、総合的な学習の時間、特別活動、体験学習、奉仕活動等の学校の教育活動全体を通じて「心の教育」を推進する。
- 学校体育・スポーツ及び健康教育においては、運動に親しむ資質や能力を育てると同時に、健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図る。また、健康な心身を育むためにも食育を推進する。
- 特別支援教育は、障害のある幼児児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、支援を必要とする幼児児童生徒が在籍する全ての学校においてその充実に努める。
- 幼児期の教育においては、幼児一人一人に基本的な生活習慣を定着させるなどの生涯教育の基礎を身に付けさせ、それぞれの個性を大切に教育を推進する。
- 乳児期、幼児期、学童期の教育・保育について、どの教育・保育施設等にいる子どもにも、その発達段階に応じた質の高い教育・保育を提供できる体制の整備を推進する。

- キャリア教育においては、グローバル化する社会情勢等の中、産業界の動向も見据え、社会的・職業的自立につながる望ましい勤労観及び職業に関する知識・技能を身に付けさせ、自己の個性を生かした進路選択ができる態度や能力を育む。
- 魅力ある学校づくりを推進するために、地域に開かれた学校、教職員としての使命感、資質・能力を向上するための教職員研修の充実、学校教育の基盤となる施設・設備の充実を図る。

3 多様化、高度化する社会の変化に対応した教育の推進 (国際社会・情報社会等への対応)

- 沖縄県がアジア・太平洋地域における拠点として、高い国際性や専門性に富む人材育成を図るため、小・中・高校生等の外国語教育（英語、中国語、その他）や国際理解教育を推進する。
- リーディング産業である情報通信産業をより発展していく専門的な知識と技術を持った人材の育成につながるよう、子どもたちの情報活用能力を育成する。
- 次代の科学技術を担い、沖縄から世界に羽ばたく研究者や技術者となる人材を育成するために、地域の研究機関や大学院大学等との連携を深める等、児童生徒の科学技術への興味・関心を育み、豊かな感性と創造力の向上を図る。

4 教育の機会均等を図るための子どもの貧困対策の推進 (子どもの貧困対策の推進)

- すべての子どもが最低限享受すべき生活や教育の機会を権利として保障する観点から、子どものライフステージに即し、支援を必要とする子どもの状況に応じた切れ目のない施策を総合的に推進する。
- 潤いと活力をもたらす沖縄らしい優しい社会を創るとともに、貧困の世代間連鎖を断ち切ることを目指し、次世代の沖縄を担う人材育成策として取り組む。
- 教育の支援においては、学校を子どもの貧困対策のプラットフォームと位置付け、学校教育による学力の保障、学校を窓口とした福祉関連機関との連携及び経済的支援を通して、総合的に対策を推進する。
- 貧困状態にある子どもの保護者に対しては、生活の支援、就労の支援、経済的支援などの充実に取り組む。

- 子どもの貧困対策を推進するにあたっては、国、沖縄県、市町村、教育・福祉関連団体、民間企業等が連携・協働して取り組む体制を構築するとともに、県民の幅広い理解と協力を得ながら、子どもの貧困対策を推進する。

5 地域を大切にし、誇りに思う健全な青少年の育成 (青少年の健全育成)

- ボランティア活動などの社会奉仕体験活動や自然体験活動、伝統行事等への参加などの総合的な青少年体験活動事業を推進する。
- 学校、警察、地域が連携し、支援を要する中学校等にスクールサポーターを配置し、少年の非行防止、立ち直り支援等を図るとともに、小学校を対象とした非行防止教室の拡充や継続補導を実施するなど、非行少年を生まない社会づくりを推進する。
- 「沖縄県いじめ防止基本方針」の適切な運用を通して、いじめ問題への対策を社会総がかりで進め、「いじめの未然防止」、「早期発見」、「いじめに対する措置」を地域や家庭、関係機関の実効的な連携の下、総合的かつ効果的に推進する。

6 家庭・地域の教育機能の充実 (社会教育の充実)

- 県民の生き生きした社会教育活動を支援し、時代のニーズに即した学習活動に対応するため、公民館や図書館、青少年教育施設等の整備・充実や社会教育指導者等の育成など、社会教育基盤の整備を推進するとともに、社会教育活動の充実を図る。

7 豊かな感性を育む文化の継承と発展 (文化の継承・発展)

- 有形・無形・民俗・記念物等の文化財調査や保存修理を行うとともに、文化財への関心を高めるために拠点となる文化施設の活用を図る。
- 生涯学習の観点に立って、国際化の時代に対応した幼児児童生徒の文化芸術への意識を育み、文化の創造に寄与する諸事業を推進する。

- 沖縄文化の基層であり文化遺産として歴史的な価値を有する「しまくとぅば」については、言語の保存・普及・継承に向けた研究体制を構築するほか、学校教育における幼児児童生徒に対応した教育プログラムの充実や生涯学習機会の提供などの学べる環境づくりに取り組む。

8 新しい時代を展望した教育行政の充実 (教育行政の充実)

- 「沖縄21世紀ビジョン」等を踏まえて作成した「沖縄県教育振興基本計画」、「沖縄県第三次生涯学習推進計画」等に基づき、その施策や計画を、総合的・効果的に推進する。
- 教育委員会の役割と使命を重視し、その機能を十分発揮できるよう各関係機関との相互の連携を強化し、教育行政の運営等の改善・充実を図る。
- 教職員が公務の能率的運営や活力ある教育活動を展開するため、生活の安定と労働環境の充実・活性化を図り、福祉の向上に努める。

9 健康な体をつくり県民が輝くスポーツの振興 (スポーツの振興)

- スポーツを気軽に親しむことのできる環境を整備・拡充し、地域住民が主体的に取り組むスポーツ活動を促進することにより、スポーツ人口の拡大を図る。
- 県民に夢と希望を与えることのできる競技スポーツの振興を目指し、スポーツ団体等の育成・強化、指導者の養成・確保を図るとともに、中・長期的な競技力向上対策を策定し、トップレベルのスポーツイベント等の誘致を促進する。
- 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会への県出身選手の輩出に向けた取組を推進する。
- 沖縄の亜熱帯海洋性気候や地域特性を生かした地域スポーツ拠点の形成を図るとともに各種スポーツキャンプやイベントの誘致活動を実施し、スポーツを通じた交流を推進するほか、受入体制の整備に取り組むなど、スポーツコンベンションを推進する。

10 私立学校教育の振興 (私立学校教育の振興)

- 私立学校の自主性を尊重しながら、運営費等の支援を行うとともに、私立学校が行う特色ある教育活動に対する助成を行い、私立学校教育の充実を促す。
- 児童・生徒が安心して学べる安全で快適な学習環境を確保するため、私立学校施設の整備に対する支援を行い、教育基盤の整備を図る。

11 大学教育の充実と基盤の強化 (大学教育の充実・強化)

- 県立看護大学においては、多様化・国際化が進む社会の中で、幅広い視野から看護を科学的に実践できる人間性豊かな看護職を養成する。また、地域特性に対応できる高度なケアを実践できる専門看護師等の実践家、看護の管理者、学習や教育の原理を統合して看護教育に応用する教育者等、保健看護活動を通して新しい学問の創出に貢献できる人材を養成する。
- あわせて、国内外の研究者との学術的交流の推進等の教員個々の研究能力の向上及び施設設備等の研究環境の整備を図ることにより、専門分野の学術活動の活性化を図る。
- 県立芸術大学においては、美術・工芸・音楽・芸能の芸術分野における有為な人材、沖縄の伝統芸能の継承と新たな芸術の創造に資する人材を養成する。また、芸術分野の幅広い実践活動を担う制作者、演奏家や研究者、芸術教育の場における専門的な指導者となり得る人材を養成する。
- あわせて、個々の教員の専門性の研究をさらに深化させるとともに、質の高い研究・教育システムの構築や施設整備等の基盤を強化する。

12 大学による社会貢献の推進 (社会貢献の推進)

- 県立看護大学においては、看護実践の中核的機関として貢献し、特に、島しょ・過疎地域の看護職者の人材養成と人材確保を図るため、行政、大学、看護学校、保健医療機関等との協働による新たな人材養成プログラムや人材確保プログラムの開発を推進する。
- 県立芸術大学においては、その実践成果を広く県民に還元し、沖縄の地域文化の活性化に貢献するとともに、大学と地域の相互交流を推進する。